





東アジア
文化都市
2023静岡県
Future City of East Asia
2023 Shizuoka

ふじのくに美しく品格のある邑

農村サステナブルフォーラム

多様な主体とともに創る 未来へつなぐ美しい農村づくり

定員
400名

日時 2023.11.25 [sat] 12:30~

会場 グランシップ
会議ホール・風
(静岡県静岡市駿河区東静岡2-3-1)

「東アジア文化都市」の協働プログラムの一環として、農村の自然と調和した暮らしや農業等の生産を通じた美しい景観、五穀豊穫を祈る伝統芸能等の農村の魅力を国内外へ発信し、美しい農村景観・地域づくりに参画を促すフォーラムを開催します。

基調講演

「美しく品格のある邑づくりから見える農村の可能性」

公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長

武内和彦氏

美しい邑づくりが10年を越え見えてきた農村の課題や未来に向かた可能性について講演します。

パネルディスカッション

「持続可能な農業・農村の目指す姿」

日本、中国、韓国、ケニアの有識者による世界から見た農村の魅力と農業・農村の継承について、ディスカッションします。

プログラム

- ・静岡学園吹奏楽部歓迎セレモニー
- ・ふじのくに美しく品格のある邑 知事顕彰／連合奨励賞式典
- ・基調講演(武内和彦氏)
- ・国内外パネリストによる事例紹介
- ・パネルディスカッション

① 当日、会場内の飲食はご遠慮ください。

公式HP

<https://mura-forum.jp>

お申込みフォームもこちらから

静岡県経済産業部農地局農地保全課

お問合せ Tel 054-221-2713

Mail nouchihozen@pref.shizuoka.lg.jp

主催: 静岡県

ふじのくに
美しく品格のある邑



し す あ
農山村サポータ



オフィシャルウェブサイト
www.shizuoka-murasapo.net
 しづおか むらサポ 検索



オフィシャルウェブサイト
www.fujinokuni-mura.net
美しく品格のある邑 検索



Instagram
www.instagram.com/murasapo/



東アジア文化都市
2023 静岡県

むらのと 39 2023 Autumn

CONTENTS

むらの声 mura note file

03 #01 下大沢
(下田市)

05 #02 ~竜ヶ石山~西四村の里
(浜松市北区)

07 地域 × 企業等
柚の里
(富士宮市)

09 小谷あゆみのむらレボ Vol.29
清水区西里
(静岡市清水区)

11 Instagram フォトコンテスト

13 イベントカレンダー



表紙／浜松市北区引佐町
(久留木水の郷～電宮小僧伝説の里～)

浜松市北区引佐町の北部、諏訪山の南西斜面に展開する久留木水の郷。「つなぐ桜田道産」や「静岡県景観賞」等に選定されており、その美しい景観や農作業の風景は、人々の心を惹きつけます。
(第7回農村の魅力フォトコンテスト入賞作品
「家族絆出」相羽 強)



富士宮市白糸の滝（白糸の里）
しづおかむらたび秋 2022Instagram フォトコンテスト入賞作品 / 撮影者: @tukusi01



「ふじのくに 美しく品格のある 邑づくり」連合とは

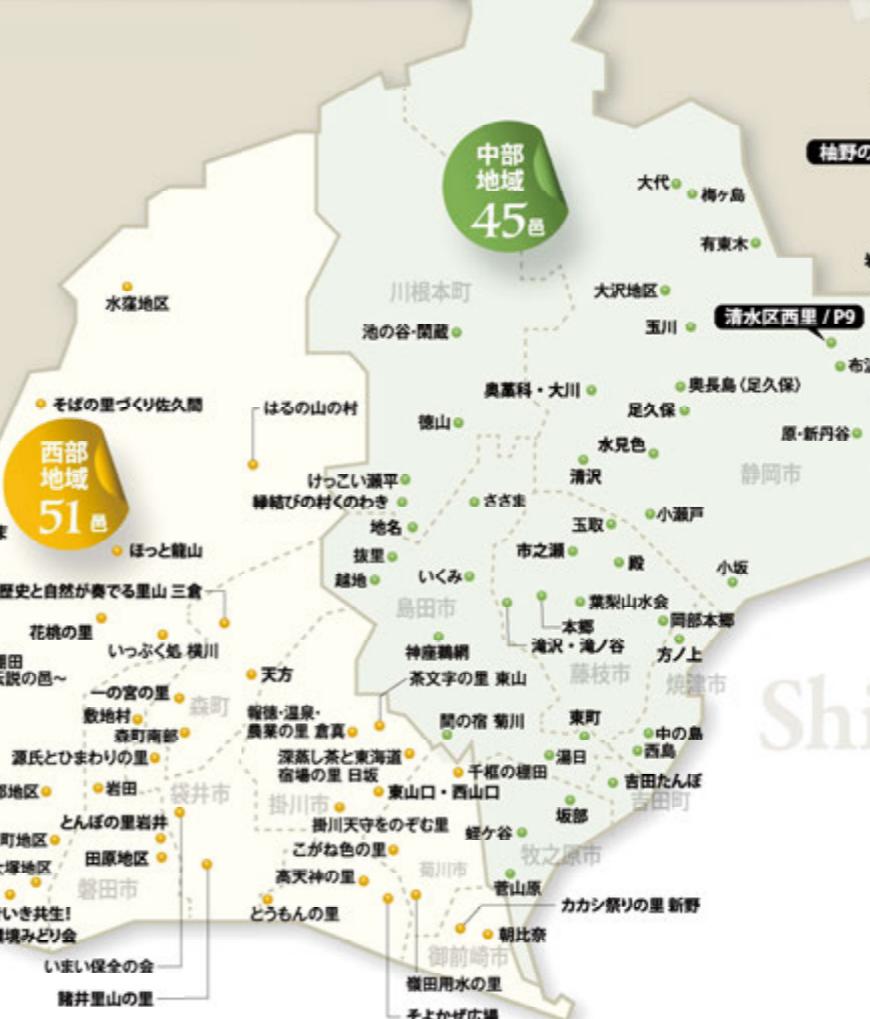
「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合とは、邑づくりの趣旨に賛同した県内35市町、静岡県が会員となり、「美しく品格のある邑」の魅力向上やブランド力強化のために、広報活動、情報収集、調査研究を行い、「美しく品格のある邑」についての審査・登録事務を行う組織です。

邑名/P → 記事掲載邑

登録 153 邑

令和5年
10月現在
登録
153
邑

中部地域
45邑



Shizuoka

伊豆地域
26邑

日本一高い富士山や日本一深い駿河湾など、変化に富んだ地形と清らかな水に恵まれた静岡県は、農作物や水産物の品目数において全国トップクラス。この豊かな食材を生産する県内の農山漁村には、棚田や茶畠といった美しい風景に加えて、古くから伝わる伝統が息づく地域それぞれの「宝（資源）」があります。

「ふじのくに美しく品格のある邑」とは、地域の宝を大切に思い、それを守り、次世代につなげていこうとする人々が集まって、真摯に活動を行う理想の農山漁村として「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」連合が認定した地域（邑）です。平成24年度に35市町の45地域が認定されたのを皮切りに、毎年登録数が増え続け、令和5年10月現在で153の地域が名を連ねています。

「ふじのくに美しく品格のある邑」は、深い山々に囲まれた山間地の集落から、周囲が市街地化された農園まで、その個性は様々です。

周辺環境だけにとどまらず、規模の大小、文化や歴史、特産品や名物など、153の地域にはそれぞれに特徴があり、県全域で多彩で多様な魅力を形成しています。

また、そこで活躍する人々も魅力的です。自分たちの地域を愛し、活動に誇りを持つ人たちの自信に満ちた姿は、訪れる人にとって、忘れられない「美しい思い出」となるはずです。

「ふじのくに美しく品格のある邑」の詳しい情報は連合のホームページにあります。魅力的な場所、地域の特産品、参加できるイベント情報なども掲載されているので、まずは気になる邑を訪ねてみましょう。



ふじのくに美しく品格のある邑ホームページ

下田市の奥山の中腹、海拔150mほどの高所に広がる下大沢地区。峠の里として約500年の歴史がある集落です。下大沢へと続く道は、車1台がやっと通れる一本道。「このまま進んでいくと大丈夫?」そんな不安な気持ちを和らげてくれるのが、遊び心いっぱいの交通標識です。

この看板を作っているのは地元有志からなる「山里会」のメンバー。地元を盛り上げようと昭和44年に発足以来、盆踊りやどんど焼きの復活、秋祭りなどを旗振り役となつて行っています。平成4年から始めた道路標識は、地元の伊豆新聞でも幾度となく取り上げられています。

「厳しい環境だからこそ、邑の絆が深まる」と話すのは山里会の山田さん。

「ここでは普通に暮らすのが大変。嫌でも人と助け合わなければ生きていけません。30世帯67人しかない小さな集落ですが、ひとたび声をかけられれば全邑人の3分の1以上が集まる。この結束力と機動力



●昭和58年に神明神社の神事を拡大させてはじまった秋祭り。神輿のほか焼きそばやおでん、刺身などの夜店で盛り上がりります。
●今年の夏に行われた花火大会。コロナと台風により盆踊りが5年間中止。コミュニティの場になればと開催されました。

県外地ならではの絶景が楽しめます!
30世帯しかない小さな集落ですが、木の伐採や草刈りなど人手が必要なとき、ひとたび声をかけば多くの邑人が集まる下大沢。この結束力と機動力が邑の宝です。下田認定まち遺産「辻の段」からの眺望は、伊豆七島まで見渡せる絶景が楽しめます。陶芸体験ができる窯元もあります。
ぜひ遊びに来てください!

邑びとメッセージ

山田 豊秋さん

下大沢出身。JA退職後に実家のミカン園を継ぎ、さまざまな品種を生産。現在はアボカド栽培にも挑戦。山里会の中心メンバーとして邑の活性化に日々奮闘中。



のどかな山の空気を吸いながら陶芸体験 しづ草窯



奥深い山里で、手びねりやろくろが体験できます。プロの陶芸家であるご主人と奥様がやさしく丁寧に指導してくれますよ。ゆのみや皿、マグカップなど、乾燥、素焼、本焼きを経て約1ヶ月後に手元に届けられます。

●下田市大沢661
☎0558-23-3291 10:00~16:00 不定期
下田の職人さんから学ぶものづくり体験として、地元の中学3年生がしづ草窯で陶芸に挑戦しました。

が邑の自慢ですね」。

主防災にもつながっています。

最後に山田さんがアボカド畑に案内してくれました。9年前から商品化に向けて地道に取り組んでいるとのこと。

自分が生きているうちになんとか成功させたいと言います。

決して恵まれた環境とは言えないかもしれません。笑いにかかるユーモアにあふれた下大沢地区の皆さん。下大沢産のアボカドが食卓に並ぶ日が待ち遠しいです。

もちろん逆境ばかりではなく、50年以上前から地道に続いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

は、邑をあげて盛り上がりま

す。もともとは旦那衆の神事

や酒盛りの場でしかなかった

祭りを、女性や子どもも楽し

めるよう、創意工夫を重ね

てきました。今では一旦外に

出てしまった子どもや孫たち

も、祭りには戻ってきます。

「たかが祭りですが、下大

沢の元気の源。助け合いの自

主防災にもつながっています。

50年以上前から地道に続

いている盆踊りや秋祭りで

北区引佐町田畠地区にある邑のシンボル「竜ヶ石山」。その中腹に白樺の棚田が広がっています。「つなぐ棚田遺産」にも認定された白樺の棚田ですが、もともとは1960年代から90年代に耕作放棄された棚田で、約50枚の棚田跡は雑木や雑草が生い茂りジャングルのような状態でした。

地区の由来を研究している邑人が棚田跡の存在を知り、現地調査したところ、地形に合わせて巧みに作られた棚田跡を見て感動。

「先祖が苦労して作り上げた棚田が朽ちていくのは忍びない。邑の絆の証である棚田を取り戻したい」と声を上げました。

地区の由来を研究している邑人が棚田跡の存在を知り、現地調査したところ、地形に合わせて巧みに作られた棚田跡を見て感動。

「先祖が苦労して作り上げた棚田が朽ちていくのは忍びない。邑の絆の証である棚田を取り戻したい」と声を上げました。

その後、高齢化による人手不足や天候不順など絶縁曲折ありましたが、西四村ふるさとの会からの支援をはじめ、



今年6月に行われた田植え作業には、延べ100名を超える参加者が集まりました。



昨年10月に行われた稲刈り作業。昔ながらの手作業で行う稲刈りを通して、食べ物を大切にする心を育みます。

この思いに共感した邑人たちが「里山元気もりもり隊」を発足。草刈機などの道具を持ち寄り、生い茂った雑木や草を刈り払うことからスタートさせました。

「1か月半ほどで10枚の棚田が姿を現しました。稻の生育を見ながら、大事に刈り取つて作業に追われましたが、収穫を迎える秋には、たわわに実った稻穂を万感の思いで眺めながら、大事に刈り取つていきました。自分たちで作ったお米の味は格別でした」と話すのは地元で建設業も営む隊長の戸田さん。



▲地元有志メンバー「里山元気もりもり隊」によって32枚の棚田が復元。

mura note file
むらの声 #02

邑の絆の証白樺の棚田を復元 助け合いの心を育み未来へつなぐ

竜ヶ石山の中腹にある白樺（しらかし）の棚田。15年前までは雑草が生い茂るジャングルのようだった。この棚田の復活をきっかけに助け合いの心が育まれている。

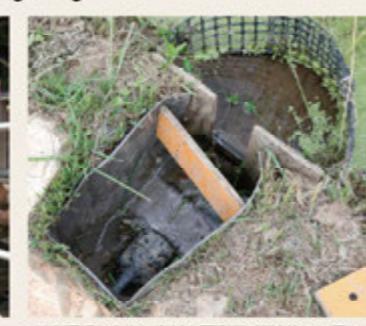
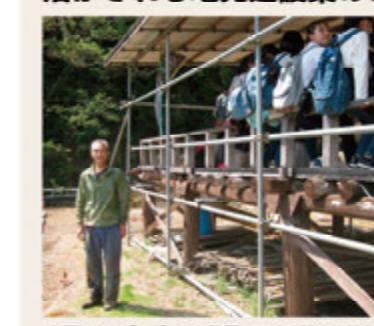


～竜ヶ石山～西四村の里
りゅうがしやま にしよむらのさと

浜松市北区

- 車／新東名高速道路 浜松いなさICから約10分
- 電車・バス／JR浜松駅から遠鉄バス「奥山高原行き／竜ヶ岩洞入口」下車、徒歩5分
- 天竜浜名湖鉄道「金指駅」から遠鉄バス「奥山高原行き／竜ヶ岩洞入口」下車、徒歩5分

活かされる地元建設業のノウハウ



工事現場から出た廃材を再利用。経済的にも優れた田越水路の整備を行っています。



毎年春と秋に「竜ヶ石山まるごとハイキング」を開催しています。遠州自然研究会のガイドさんの案内で、見落としがちな山野草の解説を聞きながら、約6kmの竜ヶ石山ハイキングコースをのんびり歩きませんか？完歩者には「竜ヶ岩洞」の入場割引も！詳細は竜ヶ岩洞公式サイトでご案内しますので、ぜひチェックしてみてください。
邑びとメッセージ

戸田 達也 さん

西四村地区出身。建設業と東海地方最大の鍾乳洞「竜ヶ岩洞」を経営。奥浜名湖観光協会会長。「里山元気もりもり隊」の隊長として邑の活性化に尽力。

カルスト地形や棚田、山頂からは富士山も！
竜ヶ石山ハイキングコース

カクスト地形や棚田、山頂からは富士山も！
竜ヶ石山ハイキングコース

● 浜松市北区引佐町田畠
☎ 053-543-0108(竜ヶ岩洞) Ⓜ 駐車場あり

総延長1000mを越える東海地方最大の鍾乳洞
竜ヶ岩洞

標高359mの竜ヶ石山にある鍾乳洞。総延長1046mのうち400mが一般公開されています。悠久のときが生んだ芸術品のような鍾乳洞たち。洞窟の中にある落差約30mの黄金の大滝は圧巻です。
● 浜松市北区引佐町田畠
☎ 053-543-0108 9:00~17:00 Ⓜ 駐車場あり

**子どものために
里山の景色を遺したい**

「子どもの頃は田舎が好きではなかつた」と話す妙泉寺の住職、川手さん。大きな転機となつたのが、お子さんが生まれたこと。「子どものためにこの景色を残してあげたい」という思いを強く持つよ

「住職から相談があつたんです。お寺の裏にある山を整備して広場を作り、地域のコミュニティの場にしたいと。私自身、役所で柚野の魅力を伝える仕事をずっとしてきたこともあって、柚野への愛着は人一倍。住職の思いに心が動かされました」と振り返ります。

大先輩から子どもたちへ 柚野の魅力を語り継ぐ

この広場を舞台に行われているのが「柚野の里寺子屋オーブンDAY」。自然体験と寺子屋講座の2本立てで、自然体験では、講師と一緒に遊びながら楽しく学びます。

寺子屋講座では、地域の魅力を知り尽くす大先輩が、柚野の魅力をお話してくれます。子どもたちが駆け回る姿をやさしい眼差しで見つめる山本さんと川手さん。



整備される前の裏山。草木が生い茂り誰も寄りつかないような場所でした。

「森林づくり県民税」などの補助を受けて本格的に整備を開始。

えです！



柚野の里 会長 山本 進さん

富士宮市生まれ。旧芝川町役場を定年退職後、お米づくりを中心に農業を営む。柚野の里の会長として邑おこしに尽力。



妙泉寺 住職 川手 正順さん

富士宮市生まれ。幼少期から富士宮で育ち、首都圏の大学に進学。卒業後すぐに妙泉寺を任せられ法務に就く。仏教と幸福学を学び、実践しながら子育て真っ最中の2児の父。



長久山 妙泉寺
富士宮市上柚野107
☎090-6163-4964

期待できる効果

地域の人々にとって

- ・地域の連携力や一体感が高まる
- ・地域の魅力を再発見でき、愛着が増す
- ・子どもたちを安心して遊ばせる場ができる
- ・邑人が集うコミュニティの場になっている

企業等にとって

- ・寺離れが叫ばれる中、子どもの頃から妙泉寺とつながることで、お寺を身近に感じてもらえる。
- ・参加者同士のコミュニティが広がり、地域貢献につながる

柚野の里

ゆののさと
富士宮市

- 車／東名高速 富士 IC から約 20 分
新東名高速 新富士 IC から約 25 分
- 電車／JR 身延線西富士宮駅から 上柚野行き、「柚野支所」下車 徒歩 6 分

ゆつたりのんびり柚野の里

雄大な富士山を背景に、美しい田園風景が広がる「柚野の里」。呂全体を見渡せる高台に妙泉寺があります。

「柚野の里のキャッチフレーズは、ゆつたりのんびり柚野の里。信号がひとつもない、時間と人の流れもゆったり。何もないけれど、そこがまたいいんですよね」としみじみ語るのは、「柚野の里」会長の山本さん。

「住職から相談があつたんです。お寺の裏にある山を整備して広場を作り、地域のコ

ミュニティの場にしたいと。私自身、役所で柚野の魅力を

伝える仕事をずっとしてきたこともあって、柚野への愛着は人一倍。住職の思いに心が動かされました」と振り返ります。

うになりました。
裏山の整備に着手したのは2009年頃。地元の仲間たちの協力を得て少しずつ切り拓いていき、県の補助制度を受けた後、2021年秋に「柚野の里寺子屋森の広場」がオープンしました。かつて大人たちから「森には入るな、あぶないぞ」と言っていた裏山が、光の射す場所に生まれ変わったのです。



企業等連携型農村再生デザイン事業
地城 × 企業等

柚野の里

地城 × 企業等

長久山 妙泉寺

妙泉寺のある「柚野の里」には、日本の原風景ともいえる自然豊かな里山があります。その里山に子どもたちが遊びのびのび遊べる場「寺子屋森の広場」をつくりました。そんな願いを込めて「寺子屋オーブンDAY」を開かれています。



毎月 1 回第 2 日曜日に開催、専門家や柚野に縁の深い匠を講師に招いて実施。地域の親子を中心に、多いときは 30 名を超える参加者で賑わいます。

柚野の里 寺子屋オーブン DAY





出来上がったばかりの生芋から作るコンニャクはふるんぶるん。

清水区西里

しみずくにしざと

静岡市清水区

- 公共交通機関
清水駅からバスで50分
- 車の場合
新東名「新清水インター」から20分、
「東名清水インター」から25分。



清水区西里は、お茶産地として知られる両河内地域にあり、興津川の川沿いには森林公園があります。このエリアには、日帰り温泉や、おまんじゅうが人気の直売所「笑味の家」、そばがおいしい食事処「たけのこ」のほか、ボードウォークやハイキングコースが整備され、一日中里山を楽しむことができます。
最近、力を入れているのは、農村マイクロツーリズムです。マイクロツーリズムとは、近隣の人々に向けて、「景観×食×文化」を体験してもらうことで、意外と知らない農村の魅力や役割を理解し、親しんでもらおうという地域「再発見」のブチ旅です。

マイクロツーリズムでは、お茶園や森林公園、温泉施設などを訪ねながら、地元の特産品や手作り料理を味わうことができます。また、農業体験や手作り工作などの体験活動も充実しています。ぜひ一度、清水区西里を訪れてみてください。



トから雑穀カレーまで、地域資源の価値の最大化に挑戦し続けています。現在、NPO法人複合力の理事長を務める加藤伸一郎さん（64歳）によると、この11年間で延べ1000人余りが農業体験に参加。そのうち8割はファミリー世代ですが、子どもが中学になると生活スタイルが変わるために、多くが辞めています。しかし、その中でも何人かは、個人で参加し続け、NPOの仲間になってくれるそうです。

わたしの居場所を見つけた

「染色サークルダイダイ」を運営する小国奈津子さん（58歳）と、鈴木亜弓さん（49歳）も今では重要なキーパーソンです。鈴木さんは初めて家族で米作り体験をしに車で40～50分かけて通っていましたが、子どもたちと一緒に成長とともに、農作業に来ることなくなりました。そんな時、染色

サークルの立ち上げを知ったそうですね。「子育てと仕事に追われ、気つくと自分に趣味と呼べるものがないかったのですが、草木染めをやりだしたらおもしろくなり、今では自分の居場所になっています」。

お店の中は、ナチュラルな色合いに染めたカバンや雑貨が並び、素朴ながらおしゃれな雰囲気です。わたしも思わずコブナグサの草木染めのバッグとお茶染めの淡い色のミニバッグを購入しました。（価格が安過ぎるのが心配になりましたが）。

マイクロツーリズムの魅力は、来る人をお客さん扱いするだけでなく、水や緑に癒されて何度か通ううちに、仲間になったり居場所となったり、徐々に深まる関係性にあるのかもしれません。遠くの親戚より近くの西里！ストレスの多い日常生活に、ほっと安らぎを提供できるのが、農村発のマイクロツーリズムです。

小さな邑の未来を考える時、農業の生産性や、売り上げだけで測ると、これらを理解し、共有する仲間を増やすために、西里の皆さんには様々な恩恵と力で邑を磨き続けています。

マイクロツーリズムの魅力は、来る人をお客さん扱いするだけでなく、水や緑に癒されて何度か通ううちに、仲間になったり居場所となったり、徐々に深まる関係性にあるのかもしれません。遠くの親戚より近くの西里！ストレスの多い日常生活に、ほっと安らぎを提供できるのが、農村発のマイクロツーリズムです。

小さな邑の未来を考える時、農業の生産性や、売り上げだけで測ると、これらを理解し、共有する仲間を増やすために、西里の皆さんには様々な恩恵と力で邑を磨き続けています。



深沢輝さん（80）、
山梨松江さん（76）、
望月さち子さん（79）



意外と知らない農村再発見！

静岡ふじのくに美しく品格のある邑づくり推進員
小谷あゆみの「むらレボ」
Vol. 29

撮影：うちだしんのすけ



左から鈴木亜弓さん（49） 加藤伸一郎さん（64） 小国奈津子さん（58） 大石よしみさん（73） 村上勝さん（75） 村上みささん（73）

複合力で農村マイクロツーリズム！

遠くの親戚より近くの西里！

複合力で農村マイクロツーリズム！

静岡市清水区西里は、お茶产地として知られる両河内地域にあり、興津川の川沿いには森林公園があります。このエリアには、日帰り温泉地元の農産物や手づくりコンニャク、おまんじゅうが人気の直売所「笑味の家」、そばがおいしい食事処「たけのこ」のほか、ボードウォークやハイキングコースが整備され、一日中里山を楽しむことができます。

最近、力を入れているのは、農村マイクロツーリズムです。マイクロツーリズムとは、近隣の人々に向けて、「景観×食×文化」を体験してもらうこと。意外と知らない農村の魅力や役割を理解し、親しんでもらおうという地域「再発見」のブチ旅です。

交流施設を運営する「西里コミュニティサークル」では、村上勝さん（75歳）を代表に、高齢農家の遊休農地を活用し、お米やそばを栽培しています。コンセプトは、「脱限界集落は休耕地の再開墾から」。そこで、一般の人に農業体験を呼び掛け、みんなで耕作するにあたり、2012年、「NPO法人複合力」を立ち上げ、あらゆるものを持ち上げ、地産地消しています。

大麦から地ビールの「両河内工房」を作り、幻の酒米「亀の尾」からはオリジナルの日本酒「ジェラード」を販売しています。

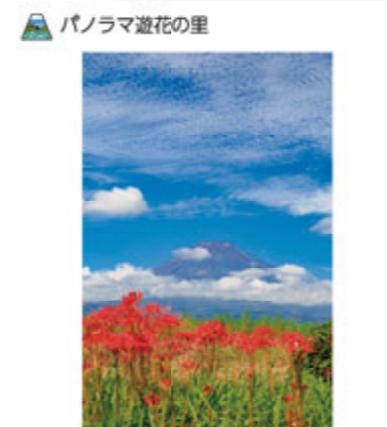
お店の中は、ナチュラルな色合いに染めたカバンや雑貨が並び、素朴ながらおしゃれな雰囲気です。わたしも思わずコブナグサの草木染めのバッグとお茶染めの淡い色のミニバッグを購入しました。（価格が安いのが心配になりましたが）。

草木染めのワークショップも開催しています。草の匂いや天然の色素を感じて染色に没頭する時間は、心が洗われるそうです。





茶文字の里東山
撮影場所：掛川市
撮影者：@s_umi.subさん
撮影時期：令和4年11月



パノラマ遊花の里
撮影場所：裾野市
撮影者：@milkyway.2さん
撮影時期：令和4年10月上旬



夢未来くんま
撮影場所：袋井市天竜区浜名湖鉄道
撮影者：@toshi.25.photoさん
撮影時期：令和4年10月上旬



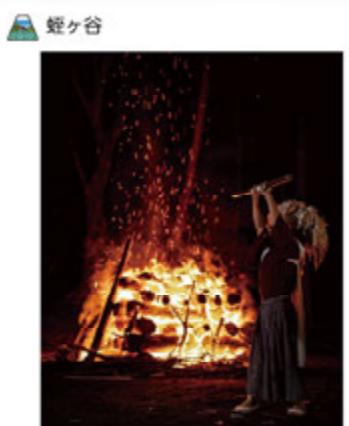
大瀬芭場
撮影場所：浜松市天竜区
撮影者：@kunmakenkouさん
撮影時期：令和4年5月上旬



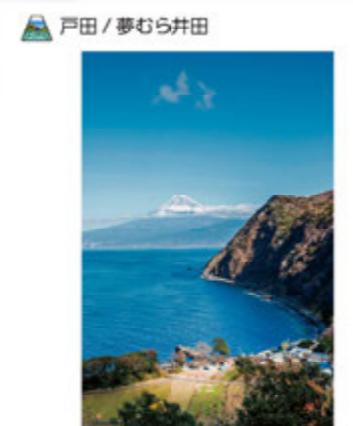
大瀬芭場
撮影場所：富士市
撮影者：@223_3776さん
撮影時期：令和4年4月下旬



訪れてみたくなる、過ごしたくなる、農村の「食」、「文化」、「人々」の写真・投稿を募集しました。



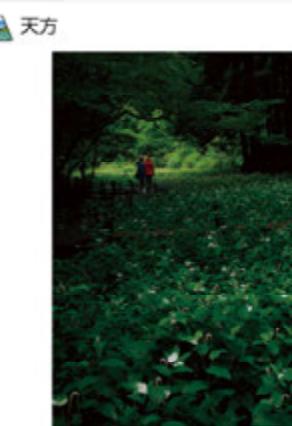
姪ヶ谷
撮影場所：牧之原市
撮影者：@8penta5さん
撮影時期：令和5年2月中旬



戸田 / 夢むら井田
撮影場所：沼津市井田
撮影者：@scenerymaさん
撮影時期：令和5年1月



内房の里
撮影場所：富士宮市内房
撮影者：@chiaki_mameさん
撮影時期：令和4年11月下旬



天方
撮影場所：森町半夏生の里
撮影者：@toshiboon_0626さん
撮影時期：令和4年7月上旬



千絆（せんがまち）の棚田
撮影場所：掛川市茶の庭
撮影者：@tezuka.kojiさん
撮影時期：令和4年5月



千絆（せんがまち）の棚田
撮影場所：菊川市倉沢
撮影者：@8penta5さん
撮影時期：令和4年6月上旬

Instagram #しづおかむらたび 秋 2023 作品募集中！

2023年10月1日（土）から秋のフォトコンテスト開催中です！
応募期間は12月15日まで。皆様からの多数の応募をお待ちしております！

詳しくは「むらサボ」instagramアカウントをチェック！

応募期間

10/1 Sun ~ 12/15 Fri

今回のテーマは、「未来へつなぎたい農村の宝物」です。

2023 10.1 Sun >>> 12.15 Fri



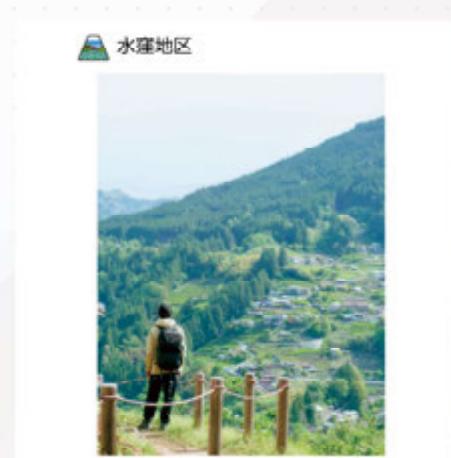
日野 元気な百姓達の里
撮影場所：南伊豆町
撮影者：@oshanpo_aliceさん
撮影時期：令和5年2月下旬



白糸の里
撮影場所：富士市大渕
撮影者：@vege_martさん
撮影時期：令和4年7月



水産地区
撮影場所：富士宮市平成棚田
撮影者：@otnky321さん
撮影時期：令和4年6月上旬



撮影場所：浜松市水窪町高根城公園
撮影者：@hachi_mi2_さん
撮影時期：令和3年5月上旬



お越しの皆様へのお願い

開催日時や内容は、余儀なく変更・中止される場合がございますのであらかじめご了承ください。

体調の優れない方のイベントへのご参加はお控えください。

滝沢・滝ノ谷

11月26日(日)

滝ノ谷不動映もみじまつり

不動岐一帯のもみじが真っ赤に染まる中、地元で採れた新鮮な農産物販売等が行われ、藤枝の秋の味覚を堪能できます。

●滝ノ谷不動岐 山の市広場 藤枝市瀬戸ノ谷

○藤枝市観光案内所 054-647-1144

December 12月~

三島箱根西麓中郷

12月10日(日)

第2回 JA ふじ伊豆三島函南地区農業祭

農産物品評会、三島箱根西麓及び中郷地区を含む三島、函南地区的農産物販売会等。

●長伏公園

三島市長伏 274-1

○JA ふじ伊豆 地区管理課

055-971-8211



二子湧水の里

12月中旬

水かけ菜オーナー募集

特産品「水かけ菜」のオーナー募集。

1区画(5m) 2,000円、収穫量は生葉で8kg程度

摘み取り期間: 2月上旬~3月中旬

●二子公民館 御殿場市二子 366-1

○JAふじ伊豆富士園農業センター

0550-87-1014

田原地区

12月24日(日) 9時~11時30分

しめ飾り教室

要予約

地区の皆さんを対象に、しめ飾りづくりの教室を開催します。

●鶴田市田原交流センター 鶴田市三ヶ野 1045-3

○田原みどりの会 鈴木 卓伯 0538-35-4269

縁結びの村くわき

12月中旬

体验農場「恋がね農園」野菜の加工体験

農園で播れた野菜を使って加工体験(大根切干作り・サツマイモ干し作り・そば製粉・そば打ち)を行います。

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/



毎月開催イベント

恩地町環境みどり会

毎月第3日曜 9時~9時30分

恩地町みどり朝市

地元地主・新鮮・安全・安い! 浜松市登録 每月第三日曜開催

●恩地町公会堂屋外広場 浜松市南区恩地町443番地

○恩地町環境みどり会 見野 開一郎 ○駐車場有 無料

053-426-2888

とうもんの里

11月19日(日) 9時30分~12時

キッズフェス

静大生企画 田んぼがフィールド。目いっぱいあそぼう!

●とうもんの里総合案内所周辺 鶴川市山崎2334

○NPO法人とうもんの会 0537-48-0045

雨天でも、別メニューで実施 参加費 1,000円(イベント保険)

田原地区

10月中旬

大豆収穫体験

見学のみ

田原小3年生が、大豆収穫体験を行います。

●鶴田市三ヶ野地区(田原小学校南側)

○田原みどりの会 鈴木 卓伯 0538-35-4269

縁結びの村くわき

11月中下旬

体验農場「恋がね農園」秋の収穫体験

秋の野菜【大根・里芋(いづり)・そば・じゃがいも・大豆・さつまいも・落花生】の収穫体験を行います。

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/

体验農場「恋がね農園」

鶴原郡根本町久野篠地内

●縁結びくわき地域協議会 大庭

090-2349-9281

●要予約 ○駐車場無料 ●体験時間: 1時間程度

●体験料: 中学生以上 1,200円 小学生 700円

未就学児 200円

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/

体验農場「恋がね農園」

鶴原郡根本町久野篠地内

●縁結びくわき地域協議会 大庭

090-2349-9281 (大庭)

●要予約 ○駐車場無料

●体験料についてはHPをご覧ください。

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/

三島箱根西麓

11月23日(祝)

三島フードフェスティバル 2023

箱根西麓三島野菜などの特産品を使った地元グルメを多数集めたイベント。

●樂寿園 (三島市一畠町19-3) ほか市内各所

●三島フードフェスティバル実行委員会事務局 (三島市商工観光課)

055-983-2766

*お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/

●詳しくはHPをご覧ください。

https://kunowaki.com/